

胃がんリスク検診の判定基準値の変更について

1. 経 過

品川区では平成24年7月より胃がんリスク検診を導入し、早期胃がんの発見につとめてきた。他自治体や職域検診等において胃がんリスク検診が広がっていくにつれ、最新の知見としてA群判定者(異常なし)に、ヘリコバクター・ピロリ菌の過去感染者や現感染者が混入していることが判明した。

こうした状況の中、平成28年11月に日本胃がん予知・診断・治療研究機構より、ピロリ菌の感染の有無を今までよりも厳しい判定基準とすることで、A群へのピロリ菌感染者の混入を大幅に減らすことが可能であると示された。

したがって、品川区胃がんリスク検診においても平成29年度からピロリ菌の陽性判定の取り扱いを下記のとおり変更する。

2. 変更内容

【陽性判定基準】

血清ヘリコバクター・ピロリIgG抗体検査

変更前10.0U/ml以上 ⇒ 変更後3.0U/ml以上

3. 過去のリスク検診でA判定でHP抗体値3以上～10未満だった方への対応

日本胃がん予知・診断・治療研究機構によれば、A群判定者のうちピロリ菌の過去感染や現感染者は10%程度とのことだが、現在、地区医師会より検査結果のデータ提供をしていただくよう依頼し、過去5年間の区胃がんリスク検診受診者のうち、陰性高値(3以上～10未満)の方の実数を把握しているところである。該当される方へは、本年秋頃までに内視鏡検査を勧奨するハガキを送付し注意喚起を図っていく。